

富雄公民館だより

平成 27 年
夏号
(通算第 2 号)

発行

(公財) 奈良市生涯学習財団

富雄公民館

奈良市鳥見町二丁目9番地
0742(43)5386

〒631-0065



おもい、うつろい、つなげる。

今年も半ばを過ぎて後半戦。上半期はどんな様子だったでしょうか。

5月30日、今年と来年がともに50周年の節目にあたる鳥見小学校・幼稚園の合同運動会が行われました。また6月6日には、同じく30周年を迎える鳥見地区社会福祉協議会によるわくわくフェスタも盛大に行われました。

鳥見小学校では、11月1日の50周年記念行事の時に同窓会の会場として卒業生に教室を貸していただけるそうです。この機会になつかしの面々と久しぶりの語りもいいですね。

また今年には終戦70周年の年でもあります。戦争を経験された方も高齢になり、当時の事を直接伺える機会も少なくなっています。今号の特集では、富雄の町と戦争について、たくさんの方に協力いただきました。ご覧いただき、戦争についても一度考える機会になれば幸いです。

館長 清原 弘章

平成 27 年
夏号
(通算第 2 号)

発行

(公財) 奈良市生涯学習財団

富雄公民館

奈良市鳥見町二丁目9番地
0742(43)5386

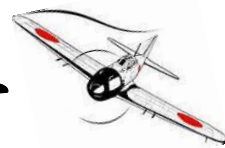
〒631-0065



一日の駅乗降人数、約3万人。市内屈指の人口集中エリアとして活気づく富雄の町にも、戦争の歴史がありました。

「どつちみち、ここで死ぬんやと思ってましたわなあ。」帝都防衛隊として19歳で入隊し、今年90歳を迎えられた奥村梅次郎さん(三碓在住)。「蛸壺掘って中に入って、4キロの爆弾持って、敵戦車のキャタピラの下に突っ込んでいく稽古ばかりしてましたん。蛸壺入ってたら、敵の砲撃の炎がきます。炸裂する音はありません。緑色の美しい火。それが頭の上にくまますのや。」

壮絶な兵隊生活を経た奥村さんは、20歳の時に茨城県で終戦を迎え、1ヶ月後、富雄に帰郷。その帰路、奥村さんが京都駅で見たのは、すでに武器を持たず丸腰で歩くアメリカ兵の姿だったとか。幸い空襲被害こそなかった富雄村^(注)でしたが、戦争に家族を奪われた人は少なくなかったようです。「隣の家も二人、反対隣の次男も海軍で、その向こうも。軒並み戦争で死んでもうた。せやけど、みな(家族は)泣いてても(戦地へ)やら



戦後70年 富雄と戦争

はった。」大正、昭和、平成と激動の90年を生きてこられた奥村さん。「朝4時に起きて、1時間かけて新聞を全部読みます。庭の花に水もやって。」その穏やかな表情からは想像できない、過酷で悲しい戦争の記憶。そのひと言

ひと言が、胸に刺さります。



資料を説明してくださる奥村さん(右)

戦争の暗い影は、じわじわと村の生活にも忍び寄ります。太平洋戦争直前の昭和16年、この地で東征中の神武天皇の弓に瓊(とび)が舞い降りたという伝説にちなんで、富雄駅は「鴉邑(とびのむら)」と駅名を変更。この頃の富雄村民の生活が、『富雄北小学校百年史』の卒業生文集に収められています。

めしの上には麦だけをふりかけ、麦めし弁当に見せかけた。」教育の軍国化が進む一方で、富雄米(明治44年に万国博覧会で最高賞を受賞)などの名産を誇る、とができます。しかし戦局が悪化する、状況は一変。「食糧不足で、運動場にイモ畑を作るため、全員で富雄川の砂を風呂敷に入れて運び、肥料は平野橋を渡って山奥へ落ち葉の堆肥を取りに行きました。」当時の三碓山田で栽培していた葡萄畑で、軍事的から酒石酸の採取を要請されたのも、この頃でしょうか。「登校して間もなくB29が襲来し警戒報のサイレンの合図で下校。家の軒下をこわごわ走って帰ったこともたびたびありました。」その後、学校の授業は停止し、戦意昂揚・挙国一致の決戦体制の波にのまれていったといえます。

「奈良は戦災がなかった」という人もいます。ですが、命を落とさずに済んだ人も、家族、青春時代、学習の機会などを奪われ、何らかの犠牲になったのだと感じました。公民館では、二度と富雄の空に脅威を感じることはない未来をどのように築いていくのか、皆様と共に考えていきたいと思えます。(泉)

(注) 当時の富雄地域は「生駒郡富雄村」でした。



自主グループAED講習会

5月29日(金)、富雄公民館の自主グループの方を対象に、AEDを使った救命救急講習会を行いました。グループ活動中のもしもの時に役立つこ



とはもちろん、知っておけば、その場で落ちていて対処することができま

こんなことがありました

とみお公民館寄席

『露の新治と高笑い』



6月30日(火)、富雄在住の落語家露の新治さんと、弟子の露の幸さんによる落語会を行いました。地元の方々

身近に落語を楽しんでもらいたいとの露の新治さんのお気持ち

公民館学習相談

7/18(土)
8/ 7(金)
9/19(土)
10/ 2(金)

いずれも
9:30~12:00

こんな講座をやります!

9 / (金)
25 10時~13時

託児あり

お料理が楽しくなる方程式

富雄の地域にある料理店のシェフから、シェフならではの家庭で活かせる料理のコツとヒントを学び、地域でお店を営むことへの想いなども伺います。



講師: ^{わた よしまさ} 和田 容昌さん
(シブレット オーナーシェフ)

費用: 1300円
(受講料300円 + 材料費1000円)

定員: 市内在住・在学・在勤の18歳以上 16人

託児: 6ヶ月~未就学児 (定員あり)
(申込時に、名前・ふりがな・性別・月齢必要)

締切: 9/15(火) (多い場合抽選)

10 / (土)
24 13時~15時半

9月から
募集開始

戦跡をたずねて ~奈良にも戦争があった~

「奈良は文化財が多いので戦災を免れた」と言われますが、本当にそうだったのでしょ

行程: 興福寺~奈良ホテル~奈良教育大 (現地学習)

講師: ^{よしかわ よしたね} 吉川 好胤さん

定員: 市内在住・在学・在勤の人 30人
(小学生以下は保護者同伴)

締切: 10/14(水) (多い場合抽選)



お申込み方法 (1~3のいずれか)

- 1) 往復はがき...「講座名」「氏名、ふりがな」「年齢」「性別」「住所」「電話番号」を記入し、公民館へ
- 2) ホームページ...「まなぶなら (<http://manabunara.jp>)」の「講座案内」をクリック
→「富雄公民館」をチェックして「検索」 (または右のQRコードを携帯等で読み取る)
→各講座のページの下部にある「参加申込」ボタンをクリック
→必要事項を記入して「確認」→確認画面の下部にある「送信」ボタンをクリック
- 3) 富雄公民館の窓口...窓口で専用用紙に記入。返信用のはがきが一人一枚必要



編集後記

公民館だより 第2号をお届けいたしました。

少しづつでも公民館や地域の方がお伝えできればと、地域の方に話をうかがって記事にする、という新聞らしいことを試みました。その中で、皆さんの思いやつながりと協力により、貴重なお話や資料、思いがけない発見など、紙面に収まらないほどでした。また機会を作り、お届けしたいと思えます。今後、皆さんにお話をお伺いすることもあるかと思いますが、ご協力お願いいたします。また、公民館だよりの愛称も引き続き募集しております。

わたしの作品



自主グループ
楽しい絵手紙 から
匿名希望 さん